事例No.	1879
公表年度	R4
団体の属性	一般市
団体名	兵庫県伊丹市

事例区分	公営企業

タグ	・交通事業 ・ICT ・（行政改革）業務の効率化

事例種類	DX

事例内容・タイトル

市バス混雑情報提供システム（いたみバスナビ）の構築

出典

公営企業の持続可能な経営の確保に向けた先進・優良事例集

【兵庫県伊丹市】
市バス混雑情報提供システム（いたみバスナビ）の構築

DX　交通事業

兵庫県伊丹市交通局企画営業課

取組の概要

市営バス利用者の利便性の向上及び運行管理業務の効率化を図るとともに、乗降客数データを逐次蓄積・分析することを目的として、新たなシステム構築を行った。

◆総事業費　システム構築費70,873千円

◆背景

- 市営バス利用者数はコロナ禍において大幅に減少し、非常に厳しい経営環境に置かれている中で、利用者数の回復、利用実態に即した効率的なダイヤへの見直しを含む経営の効率化は喫緊の課題となっていた。
- こうした課題を解決するため、より安心・便利に市営バスが利用できる環境を整備するとともに、路線・停留所ごとの利用状況を把握するためのシステムを構築することとした。

◆具体的内容

- バス車内にカメラセンサーを取り付けて乗客数を常時把握することで、一般的なバスロケーションシステムで提供している接近情報等に加え、車内の混雑情報をリアルタイムに提供するシステムを構築した。
- カメラセンサーにより得られる情報を基に、路線別や停留所別の乗降客数、各種運行データを収集できるようにした。

◆効果

- 乗降データ等の収集・分析業務に要していた人件費が削減された（約10,000千円/年）。
- 正確かつ詳細な運行データや乗降データが随時取得できるようになった。
- 運行状況に関する問い合わせ、苦情電話の対応業務が減少した（90件→50件）。
- 標準的なバス情報フォーマット（GTFS）の提供によって他事業者の二次的活用が可能となり、他社局のバス、鉄道への乗り換えサービスの向上などが期待できる。

取組のポイント

- 利用者が専用アプリ等をダウンロードすることなく利用でき、多言語にも対応したシステムとした。
- 各バス停に掲示したQRコードをスマートフォンで読み取るだけで直接運行情報にアクセスできるようにすることで、誰もが使いやすい環境を整えた。
- 市営バスの利用機会増加につなげるため、運行情報のオープンデータ化を図った。

公営企業情報

- 行政区域内人口　197,476人（令和4年1月1日時点）
- 行政区域内面積　25.09km²（令和4年1月1日時点）
- 営業路線　79.2km（令和3年度決算）

画面イメージ



取組のスケジュール

- 令和3年5月に検討を開始し、令和3年9月にプロポーザルを実施。
- 令和4年3月から試験運用開始。
- 令和4年5月から本格稼働開始。

今後の展望

- 収集した乗降データ等を活用し、利用者ニーズや利用実態に即したダイヤ編成を行う。
- 今後、利用者にシステムの周知、利用促進を図り、運行状況の問い合わせや苦情への対応業務の更なる軽減を図る。